

事例名	福島県職員との交流でふくしまの復興と京都の防災力向上の取組みを推進！
チーム名 【所属名】	建設交通部ふくしま復興応援団 【建設交通部指導検査課】
メンバー氏名	主任 齋藤 匠（発表） 副主査 今村 朋裕（PC）
アピール ポイント	<p>《所属長：建設交通部理事（指導検査課長事務取扱）氏名 藤森和也》 建設交通部では、東日本大震災直後から、延べ約50名の技術職員を福島県相馬港湾建設事務所に派遣しており、一つの出先機関のような存在になっています。今回は、毎年開催している工事報告会に、同事務所の福島県職員を招き、復興の現状と課題を報告いただき、大規模災害復興の取組みを学ぶとともに、両府県の交流をさらに深めました。</p> <p>《アセッサー：建設交通部指導検査課副課長 氏名 西村之宏》 派遣を受け入れた側が派遣元を訪問して復興の現状を紹介するという点が斬新であり、派遣により得られたことを活かす観点で、単に帰庁職員が報告会を開くことだけでは得られない情報共有や共助意識の高揚、防災意識の醸成等様々な効果が得られたと思う。</p>
取組の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県への復興支援は今後も継続する見込みであり、復興事業の現状や課題を共有するとともに、両府県の技術職員の一層の交流を促進する。 ・京都府と府下市町村の職員が、東日本大震災における福島県の取組みを学び、南海トラフ巨大地震等、今後想定される大規模災害における事態や対策等の意識を高める。
取組の ターゲット	京都府及び府内市町村の技術職員 福島県の技術職員
取組内容 プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・建設交通部では、京都府及び府内市町村の技術職員を対象に、毎年一回技術報告会を開催し、大型プロジェクトの進捗状況や先進的な工法等の情報共有に努めている。 ・今年度は、これらの技術報告に加え、土木職員を派遣している福島県相馬港湾建設事務所から、職員3名を招き、特別発表を実施した。 ・東日本大震災における福島県内の被災状況、被災直後の問題点、復興の組織体制、これまでの復興状況と今後の取組み等について報告いただき、参加した技術職員約100名が大規模被災時の課題と心構え等を共有した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加した京都府と府内市町村の技術職員が大規模災害発生から復興に至る福島県の対応を学び、防災意識を高めることができた。 ・福島県の被災地の復旧、復興状況と京都府派遣職員の業務状況等について、周知を図ることができ、「来年は自分も復興派遣に参加したい」との声が上がるなど、今後につながる報告会となった。 ・夜の懇親会では、過去の派遣経験者も多数参加し、福島県との交流が一層深まった。
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの工事報告会でも、京都府の派遣職員の報告は実施してきたが、今回、福島県の職員に参加していただくことで、未曾有の大災害発生からこれまで3年間の生の情報について学ぶ機会を創った。 ・工事報告会と併せ、派遣経験者も参加する懇親会を開催し、交流を一層深めた。 ・全日本建設技術協会による助成制度を活用し、福島県職員の旅費交通費を捻出し、両府県の負担軽減を図った。
今後の 展開	来年度以降の工事報告会においても、福島県職員を招致し、派遣を通して築かれてきた交流をさらに深めるとともに、大規模被災を経験した自治体に学び、今後の府民の安心・安全を守る防災の取組みに繋げていきたい。